

福島が火を点け辻本が煽る、慰安婦問題！

旧日本軍のガセネタで金儲けしようとたくらんだ旧日本兵吉田清治（元共産党員）が著書『私の戦争犯罪』の記述の中で、済州島で奴隷狩りのような強制連行をしたという作り話をでっち上げ、それを政治的に利用しようとした当時弁護士 of 福島瑞穂らが韓国人慰安婦を探し、名乗り出た金学順をけしかけ証言させ、朝日新聞記者植村隆がその証言をテープで聴いて、軍票の賠償問題をいつのまにか従軍慰安婦問題にすり変えて記事を書いた。要するに金目的のキーセンを、性奴隷だと言って引きずり出し、日本に連れてきて裁判や講演をさせて彼女を利用したということである。福島瑞穂が主犯格で、朝日新聞は捏造記事で問題を拡大させた共犯者である。今年 3 月 8 日衆議院予算委員会で民社党辻本清美議員が、政府に河野談話やいわゆる従軍慰安婦問題を取り上げて歴史認識を問い、歴史認識を歴代内閣同様踏襲するよう迫ったが一蹴された。同日同委員会で日本維新の会中山成彬議員が朝日新聞と朝鮮人の従軍慰安婦捏造工作を国会で暴いている。捏造記事で日本の名誉と国際的地位を貶しめた朝日新聞とともに社民党福島党首にも説明責任がある。当事者を国会で証人喚問して説明させるべきだと考える。

★朝日新聞記者植村隆は妻が朝鮮人（母が反日運動家）

★全国の公立図書館で従軍慰安婦と称する書籍は全て撤去されている。